

# 果樹

## 実 況

### 1 ウメ

#### (1) 生育状況 (園芸研究センター)

「紅サシ」は11月上旬から本格的に落葉が始まり、11月16日時点でほぼ落葉が終わった。11月中旬現在、「新平太夫」・「福太夫」は落葉が進行中で、「剣先」はまだかなりの葉が残っている。

「紅サシ」の短果枝花芽密度は1.68個/cm(平年1.66個/cm)であり、平年並みであった。

#### (2) 地域状況

11月末現在、落葉期を迎えている。各地でせん定作業が進められている。

ウメ花枝は12月2日から集荷が始まり、計6回の集荷で180万本の出荷が計画されている。

### 2 ナシ

#### (1) 生育状況 (農業試験場)

11月20日現在、「幸水」・「豊水」とともにほぼ落葉した。

#### (2) 地域状況

各地とも、落葉は平年並みに進んでいる。「幸水」等のえき花芽の着生は園により差はあるが、おおむね良好である。

粗せん定が終了し、本せん定が始まっている。

### 3 カキ

#### (1) 生育状況 (農業試験場)

表1 カキの生育と果実品質

| 品種   | 年次   | 発芽   | 開花期 (月/日) |      |      | 平均果重<br>(g) | 糖度<br>(%) |
|------|------|------|-----------|------|------|-------------|-----------|
|      |      |      | 始期        | 盛期   | 終期   |             |           |
| 刀根早生 | 2015 | 3/26 | 5/15      | 5/17 | 5/19 | 287         | 15.9      |
|      | 2014 | 3/28 | 5/22      | 5/24 | 5/26 | 266         | 18.0      |
|      | 2013 | 3/27 | 5/22      | 5/24 | 5/26 | 262         | 17.6      |
|      | 2012 | 4/12 | 5/21      | 5/24 | 5/28 | 197         | 13.5      |
|      | 平年   | 3/29 | 5/20      | 5/22 | 5/25 | 222         | 14.2      |
| 平核無  | 2015 | 3/26 | 5/15      | 5/17 | 5/19 | 293         | 16.5      |
|      | 2014 | 3/28 | 5/22      | 5/24 | 5/26 | 268         | 16.3      |
|      | 2013 | 3/27 | 5/22      | 5/24 | 5/26 | 266         | 18.2      |
|      | 2012 | 4/13 | 5/22      | 5/25 | 5/28 | 262         | 16.1      |
|      | 平年   | 3/30 | 5/22      | 5/24 | 5/26 | 244         | 14.4      |

#### (2) 地域状況

あわら市の「平核無」は11月4日に収穫が終了した。収穫量が多く、果実肥大は良好であったが、パッテン果、病害虫の影響で秀品率はやや低かった。あんぽ柿、干し柿の生産が本格的に行われている。落葉は平年並みの時期で進んでいる。

### 4 イチジク

#### (1) 地域状況

若狭管内の出荷は、11月下旬～12月上旬まで継続する予定である。

## 対 策

### 各樹種共通

#### 1 苗木の植付け

樹種によって苗木の植付け適期は異なる。

多くの落葉果樹では、雪解け後になると根の伸長が始まり、活着不良により枯死することもあるので、休眠の深い年内に植付けを完了する。

ミカン等の常緑果樹で年内に苗木を入手した場合は、数本ずつまとめて排水良好な場所に仮植えし、全体にワラや寒冷紗等を巻き付け、寒風による落葉を防ぎながら越冬させた上で、融雪後の春先に植付けを行う。

植付けは、晴天が続いた後で、土壤水分が少ない状態で作業を行う。前月の情報に従って植え穴を準備し、根が露出しないよう5cm程度の覆土を行うが、接ぎ木部が土の中にかくれてしまわないように注意する。植付け後は、凍害や野ウサギの害を防ぐために、稲わらなどで苗木を覆う。

#### 2 基肥の施用

11月下旬から基肥の施用時期に入っている。まだ施用していない園地では12月上旬までに施す。地域、樹種ごとの施肥指針に基づき施用する。

#### 3 整枝せん定

落葉果樹でせん定せずに降雪期を迎えると、積雪や着雪によって枝折れが発生しやすくなるので、本格的な降雪シーズン前にせん定作業を進める。特に、ナシ・ブドウ・キウイフルーツ等の棚栽培果樹では、着雪による棚の倒壊を防ぐため、年内に粗せん定を済ませる。

ミカン等の常緑果樹では、冬期間の落葉を防ぐため、ムシロや寒冷紗等で樹冠全体に防寒被覆を行い、融雪後(3月頃)の温暖な日にせん定を行う。

樹種別に特に注意すべき事項は以下のとおりである。

##### (1) ウメ

地域・園・樹や栽培管理によって花芽のつき具合や結果枝数は異なるので、せん定前に花芽のつき具合や樹勢(新梢の伸び・太さ・数等)をよく観察する。適正な結実量を確保するためには、せん定後の花芽数は1㎡当たり400芽が目安である。

「紅サシ」では、直射日光が当たるような結果枝で樹脂障害果の発生が多いので、立ち枝側枝よりも骨格枝等から発生した緑枝を残すようにする。

「新平太夫」や「福太夫」は樹勢が強いため、新梢伸長が旺盛で、特に主枝・亜主枝候補枝の先端部は強勢な新梢が多数発生する。主枝や亜主枝の先端部では、先端から2～3番目に発生した横向きからやや下向きの新梢を1本選び、その新梢長の半分程度に切り返して骨格枝の延長をはかる。骨格枝延長以外の骨格枝先端部の新梢はすべて切除する。2年枝には結果枝が多く着生するため、20cm程度の間隔になるよう間引きせん定を行う。

##### (2) ナシ

樹冠の拡大に伴い、密植状態になっている園では縮・間伐を計画的に行う。

成木のせん定は、100～150cm前後の長さの側枝を40cm間隔でまんべんなく配置できるように、主枝および亜主枝(1主枝当たり2～3本)を配置する。主枝、亜主枝は真っ直ぐ養成し、先端部は他の部

位よりも30cm程度高くなるように立ち上がり部を設ける。3～4年以上経過して、花芽が少なくなった古い側枝は更新して若返りを図る。

### (3) カキ

樹齢が10年を超えた頃から隣接樹と枝が交差して過密状態になってくるので、縮間伐を実施する。

永久樹については作業しやすい樹形にするため、主枝先端部は立ててやや強めに切り返す。垂主枝は1主枝当たり2本程度にして、長大化した側枝は整理し、新梢の発生を促して、側枝をまんべんなく配置する。

## 4 雪害防止対策

### (1) 降雪前

各樹種ともせん定を急ぐ。

混みあっている部分は、着雪を少なくするため、不要な枝や徒長枝の間引きせん定を実施する。

ナシ等の棚栽培では中支柱を入れ棚の補強対策を行う。支線がゆるんで棚が低くなっている場合は、棚締めを行う。吊棚は、積雪による加重が棚に均等にかからない場合があり、少ない雪でもバランスを崩して倒壊する危険性があり注意する。

幼木は結束して樹冠を縮めるか、幹に添わせて支柱を立て、支柱の先端から枝を吊り上げる(図1)。成木では、主枝等の主要な枝に下からタル木等の支えをあてがい、骨格枝の折損を防止する。

### (2) 降雪中・降雪直後

降雪中や降雪後は園内を見回り、枝に付着した雪を払い落とし踏圧する。

雪に埋まった樹や枝は放っておくと雪の沈降で裂開する。多量の降雪があったら、融雪が進まないうちにすみやかに雪中から枝を掘り出し、タル木等のつかい棒をあてがい枝を持ち上げる。

幼木が積雪によって傾いた場合は、早急に引き起こし、支柱を添えて固定する。

枝折れや枝裂けした場合は、被害が軽い時はヒモや縄等で緊縛して枝の接合をはかる。大きく裂開して枝の接合が困難な場合は切り戻しを行い、癒合剤を塗布する。

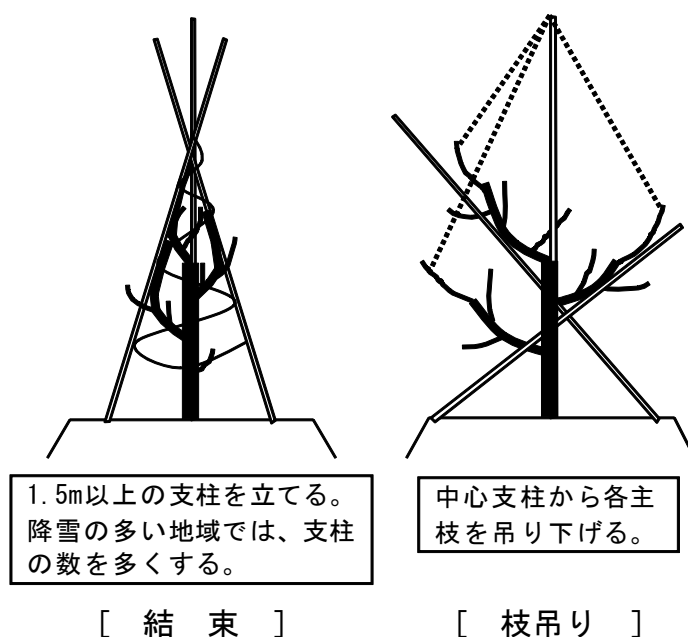


図1 幼木の積雪対策